TOYO KNIFE CO.,LTD.

東洋刃物株式會社

2018年3月期　第2四半期決算説明会

2017年12月13日

証券コード:5964

目次

1.　当社について

2.　2018年3月期第2四半期　業績概要

3.　中期経営計画の進捗

4.　2018年3月期　業績予想

5.　株主還元に対する基本方針

当社について

会社概要

東洋刃物株式會社

設　立	1925年8月9日
本社所在地	宮城県富谷市富谷日渡34番地11
代 表 者	代表取締役社長　清野　芳彰
事 業 内 容	情報産業用刃物、鉄鋼用刃物、製紙パルプ用刃物、製本用刃物、合板用刃物、 その他の工業用機械刃物、産業用機械･部品の製造･販売及び緑化造園
主要取引先	新日鐵住金、JFEスチール、THK、三井精機工業、日東電工、タツモ
従 業 員	274人（内、臨時従業員 84 人）
上場取引所	東京証券取引所（第二部）
発行済み株式数	1，577,300株
主 な 株 主	地域中核企業活性化投資事業有限責任組合、七十七銀行、常陽銀行、自社従業員持株会、 みずほ信託銀行、仙台ビルディング、大同特殊鋼、仙台放送、日本高周波鋼業、JFEスチール

2017年9月末現在

沿革

東洋刃物株式會社

年　月	概　　要
1925年8月	各種工業用刃物の国内生産を目的として、本多光太郎博士の提唱により東京市麹町で設立（資本金30万円）。
1925年9月	仙台工場落成。
1937年5月	大阪に第二東洋刃物設立後、10月に吸収合併、大阪工場として稼動開始。
1947年7月	本社を仙台市米ヶ袋に移転。
1960年10月	多賀城工場（宮城県多賀城市）を新設。
1961年11月	東京証券取引所 市場第二部上場。
1961年11月	株式会社トオハ設立。
1967年11月	熱研工業株式会社設立。
1970年8月	富谷工場（宮城県富谷市）を新設。
1973年7月	東洋緑化株式会社設立。
1976年12月	合弁にて韓国に東洋鋼業株式会社を設立。
1977年9月	大阪・多賀城・富谷各工場の充実のため、仙台工場を売却。
1977年9月	本社を仙台市港四丁目に移転。
1978年3月	資本金を5億円に増資。
1997年4月	富谷工場を増設。
2004年1月	中国現地法人 上海東優刃物国際貿易有限公司設立。
2011年7月	東日本大震災により被災したため、本社を宮城県富谷市に移転。
2012年2月	大阪工場を富谷工場へ移転。富谷工場の一事業所として多賀城工場の操業を一部再開。（多賀城事業所）
2016年3月	地域中核企業活性化投資事業有限責任組合と資本業務提携。

事業構成及び主要製品

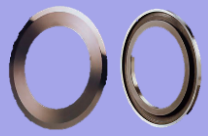
東洋刃物株式會社

緑化造園

・造園工事
・管理受託業務
・法面工事
・土木工事
・建築工事

情報産業用刃物

スリッティングユニット



スリッターナイフ
（ゲーベルタイプ）

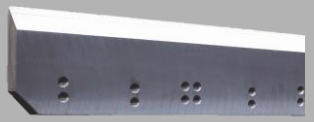
高精度
移動式ホルダー

コーティングダイ

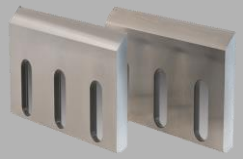
・高い精度を要求される電子部材等の切断・加工に使用

用途としては
スマートフォン、タブレット、液晶テレビ、磁気テープ等の部材加工

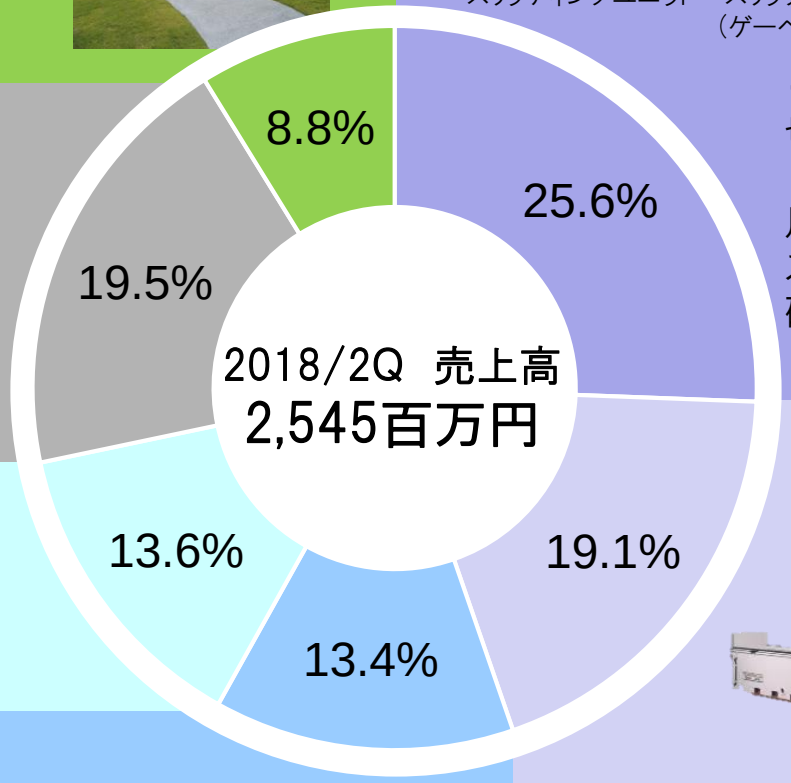
その他



断裁包丁



チッパーナイフ



製紙パルプ・食品用刃物

段ボールカッター

ミートスライサー

産業用機械及び部品

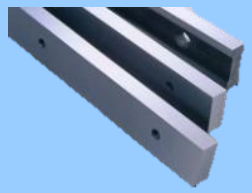
刃付平面研削盤

・工業用刃物を研ぐ機械

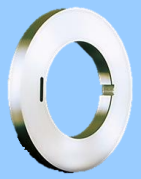
鉄鋼用刃物

メカニカルエキスパンドダイス

・石油や天然ガスを輸送する鋼管の加工



シャーブレード



サイドトリマーナイフ

・各種鋼板等の剪断に使用

スライドウェイ

・工作機械の摺動面に使用する部品

当社グループの概要

東洋刃物株式會社

:生産拠点

:販売拠点

【韓国】
東洋鋼業株式會社
（持分法適用関連会社）
✓韓国市場向け製造・販売

【中国】
上海東優刃物国際貿易有限公司
（連結子会社）
✓中国市場向け販売

【マレーシア】
クアラルンプール支店、シブ事務所
✓東南アジア・オセアニア地域市場向け販売

国内拠点

生産拠点	主要生産品
富谷（宮城県）	情報産業用・鉄鋼用・製紙パルプ用各種刃物、産業用機械・部品、その他
多賀城（宮城県）	産業用機械・部品、合板用刃物、その他

販売拠点	販売エリア
仙台	東北・北関東
東京	東京・関東・甲信越・静岡・北海道・海外
名古屋	東海・北陸・近畿
大阪	近畿・四国・中国
広島	中国・九州・四国

連結子会社	事業内容
（株）トオハ	国内市場向け工業用機械刃物の製造・販売
熱研工業（株）	国内市場向け工業用機械刃物の製造・販売
東洋緑化（株）	緑化造園工事

2018年3月期第2四半期　業績概要

2018年3月期第2四半期　業績概要

東洋刃物株式會社

- 【売上高】機械刃物及び機械･部品事業が主力の情報産業用刃物の好調な受注に加え、製紙パルプ用刃物、その他に分類される刃物関連も堅調に推移し、前年同期比0.5%増の2,545百万円。
- 【営業利益】業務改善活動により、売上総利益率が改善し、前年同期比8.7%増の124百万円。
- 【経常利益】シンジケートローン関連費用の減少により、前年同期比83.3%増の92百万円。

単位：百万円

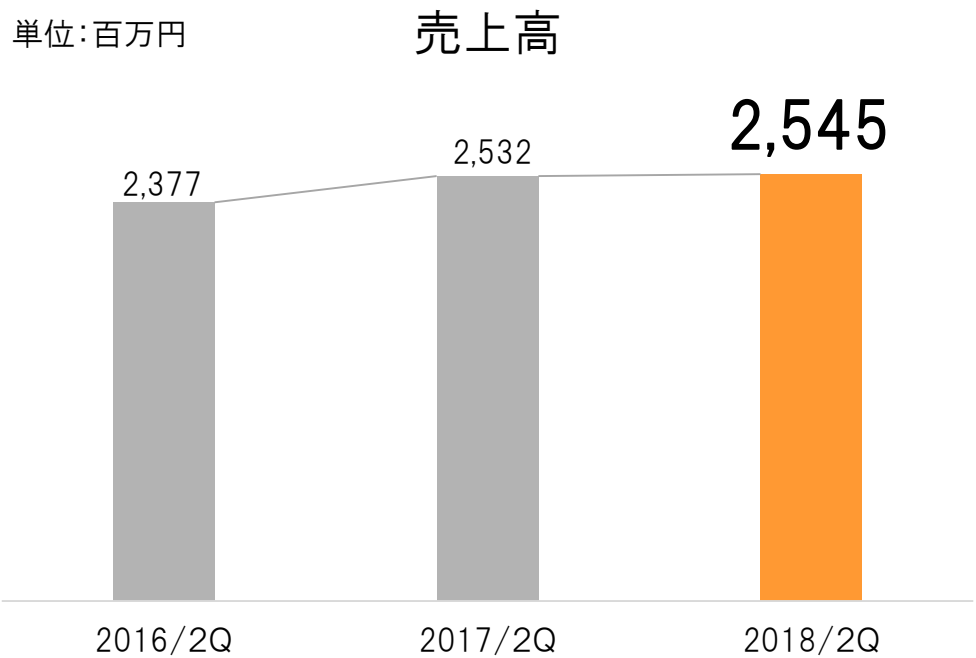
	2017/2Q		2018/2Q		前年同期比		計画比	
	金額	率	金額	率	増減額	増減率	期初計画	達成率
売上高	2,532	100.0%	2,545	100.0%	13	↑ 0.5%	2,450	103.9%
売上原価	1,884	74.4%	1,848	72.6%	△ 36	△1.9%	–	–
売上総利益	647	25.6%	697	27.4%	49	7.7%	–	–
販売費及び一般管理費	533	21.1%	573	22.5%	39	7.4%	–	–
営業利益	114	4.5%	124	4.9%	9	↑ 8.7%	120	103.3%
経常利益	50	2.0%	92	3.7%	42	↑ 83.3%	100	92.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	36	1.4%	73	2.9%	37	105.1%	90	81.1%

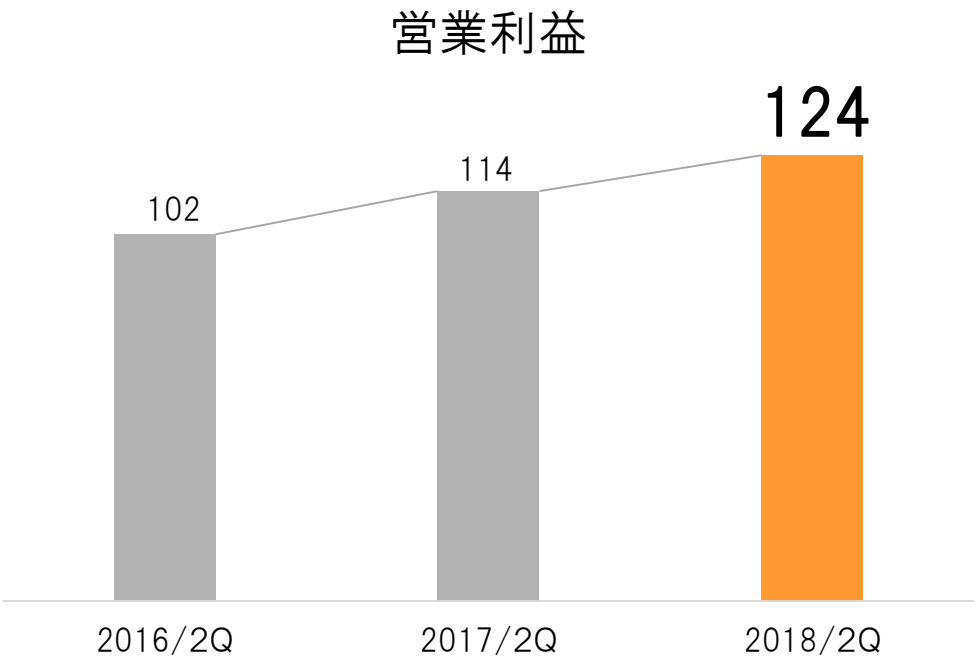
業績推移

東洋刃物株式會社

- 業務改善活動の積み重ねにより、通期計画達成に向けて順調に推移。

単位：百万円





	2016/2Q	2017/2Q	2018/2Q
売上高	2,377	2,532	2,545
営業利益	102	114	124
経常利益	82	50	92
親会社株主に帰属する四半期純利益	66	36	73

2018年3月期第2四半期　用途別売上高及びセグメント利益

東洋刃物株式會社

機械刃物及び機械・部品

- 【売上高】主力の情報産業用刃物は好調に推移し、製紙パルプ用刃物も堅調となり、前年同期比3.2%増。
- 【セグメント利益】業務改善活動の成果として売上総利益率改善により前年同期比12.3%増。

緑化造園

- 【売上高】管理業務は継続して堅調に推移しているものの、造園工事関連の減少が響き、前年同期比20.8%減。
- 【セグメント利益】減収の影響により、前年同期比57.1%減。

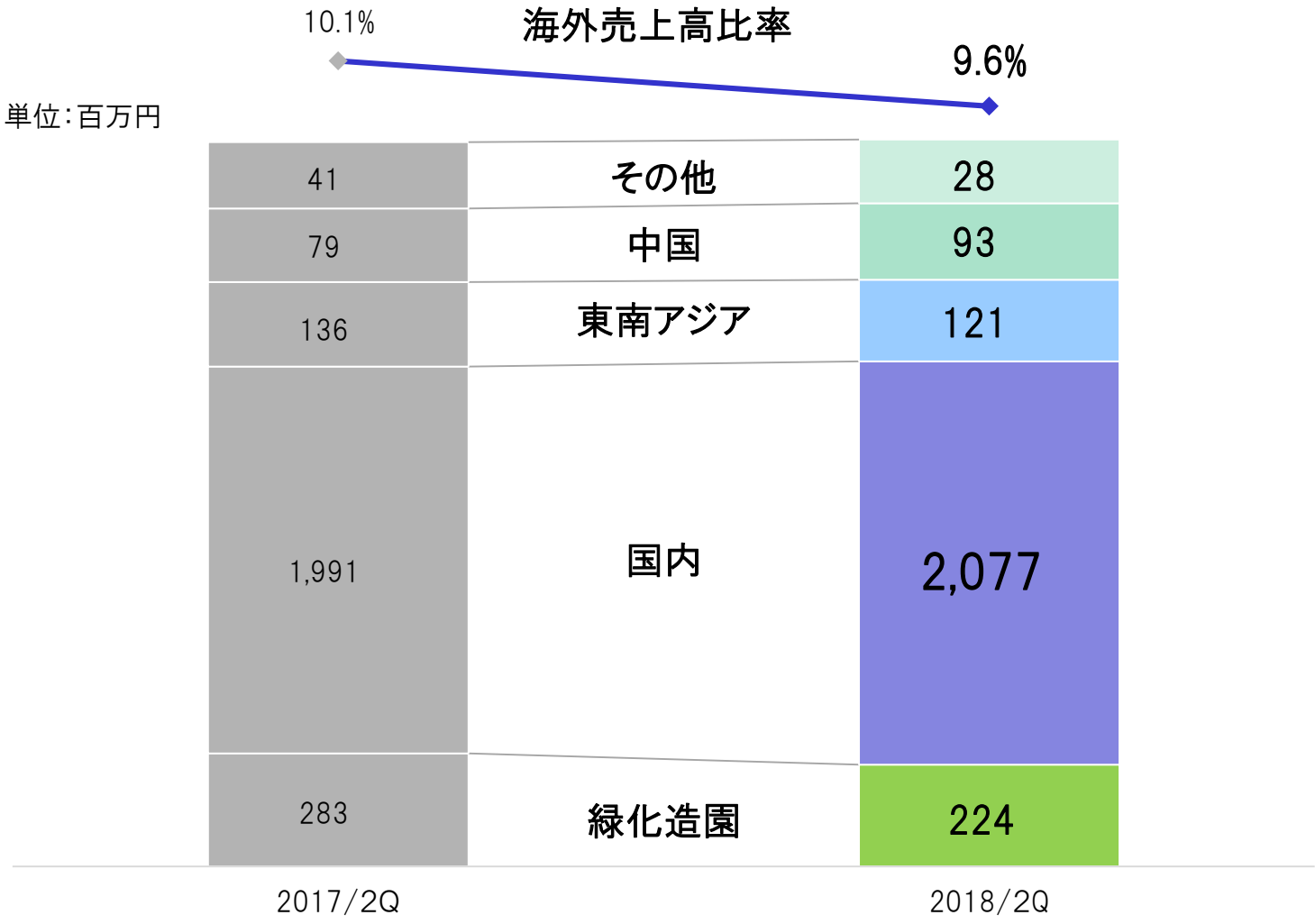
単位：百万円

	2017/2Q		2018/2Q			
	売上高 （セグメント利益）	構成比	売上高 （セグメント利益）	構成比	増減額	増減率
機械刃物及び機械・部品	2,248 (254)	88.8% –	2,321 (285)	91.2% –	72 (31)	↑ 3.2% ↑ (12.3%)
情報産業用	566	22.4%	651	25.6%	85	15.1%
鉄鋼用	371	14.7%	341	13.4%	△30	△8.3%
製紙パルプ用	292	11.5%	345	13.6%	52	18.1%
産業用機械及び部品	552	21.8%	485	19.1%	△67	△12.2%
その他	465	18.4%	497	19.5%	32	6.9%
緑化造園	283 (24)	11.2% –	224 (10)	8.8% –	△59 (△14)	↓ △20.8% ↓ (△57.1%)
合　　計	2,532 (279)	100.0% –	2,545 (296)	100.0% –	13 (17)	0.5% 6.2%

2018年3月期第2四半期　地域別売上高

東洋刃物株式會社

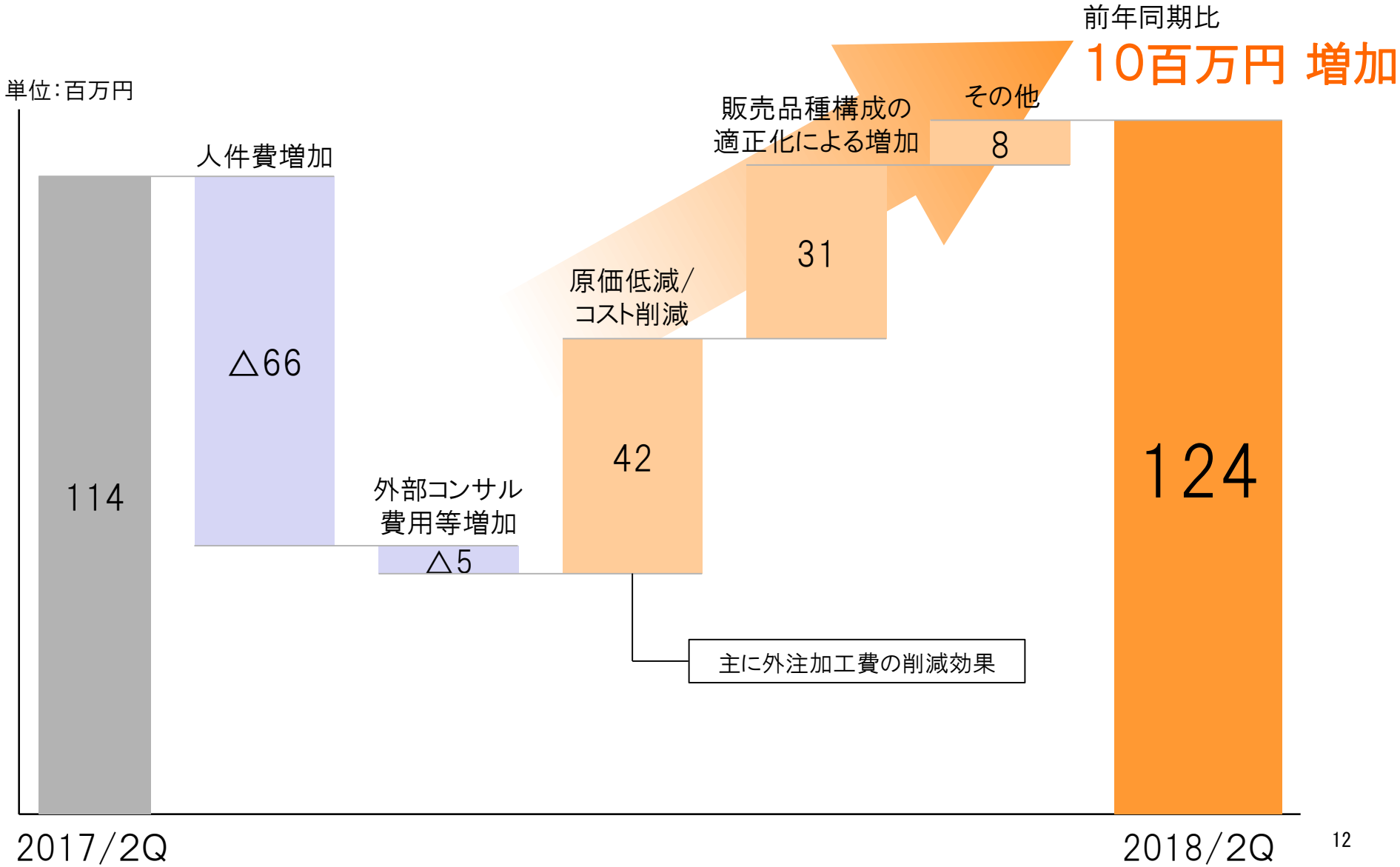
- 【日本】主力の情報産業用刃物は好調に推移し、製紙パルプ用刃物、その他に分類される刃物関連も堅調であった影響を受け、売上増加。
- 【海外】東南アジアは産業機械及び部品の前期売上の反動により減少。中国は販売子会社の売上が増加。



2018年3月期第2四半期　営業利益増減分析

東洋刃物株式會社

- 人材基盤強化のための積極的採用等により人件費が増加。
- 効率化投資や工程改善活動等により、原価が低減。



2018年3月期第2四半期　貸借対照表

東洋及物株式會社

- 純資産合計は、前期比6.5%増。

単位：百万円

	2017年3月期末	2018/2Q	増　減　額	増　減　率
資産の部				
流動資産合計	4,390	4,575	185	4.2%
固定資産合計	1,924	1,959	34	1.8%
資産合計	6,314	6,534	220	3.5%
負 債 の 部				
流動負債合計	2,733	2,913	179	6.6%
固定負債合計	2,055	1,996	△58	△2.9%
負債合計	4,789	4,910	120	2.5%
純資産の部				
資本金	500	500	0	0.0%
資本･利益剰余金	1,064	1,138	73	4.7%
その他の包括利益累計額	△42	△16	25	60.8%
非支配株主持分	2	2	0	1.3%
純資産合計	1,524	1,624	99	6.5%
負債及び純資産合計	6,314	6,534	220	3.5%

2018年3月期第2四半期　キャッシュ・フロー計算書

東洋刃物株式會社

- 【営業活動によるキャッシュ・フローの内訳】税金等調整前四半期純利益92百万円、仕入債務の増加額80百万円等。
- 【投資活動によるキャッシュ・フローの内訳】有形固定資産の取得による支出64百万円等。
- 【財務活動によるキャッシュ・フローの内訳】借入金の返済による支出65百万円等。

単位：百万円

	2017/2Q	2018/2Q	増 減 額	増 減 率
営業活動によるキャッシュ・フロー	248	141	△106	△43.0%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17	△62	△45	－
（フリーキャッシュ・フロー）	231	79	△151	△65.8%
財務活動によるキャッシュ・フロー	△66	△77	△11	－
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10	△1	9	－
現金及び現金同等物の増減額	153	△0	153	－
現金及び現金同等物の期首残高	1,622	1,803	180	11.1%
現金及び現金同等物の当期末残高	1,776	1,803	26	1.5%

2018年3月期第2四半期　設備投資・減価償却費・研究開発費

東洋刃物株式會社

- 設備投資額は、生産性向上を狙いCNC旋盤などの機械及び装置を中心に、84百万円。
- 研究開発費は、Laboシリーズを始め、主力である情報産業用刃物を中心に、22百万円。

単位：百万円

	2017年3月期		2018年3月期		前期比（見通し）
	上期	下期	上期	下期計画	
設備投資	49	124	84	143	54
減価償却費	70	75	76	83	14
研究開発費	23	22	22	27	4

Laboシリーズとは、実機要らず、場所を選ばず、手軽にスリットできる小型試験機です。

2015年度

『ラボ・ベーシック』
シリーズの基本モデル

2016年度

『ラボ・オプション』
素材の巻き取り・巻き出しにより
張力をかけた切断評価が可能

2017年度

『アドヴァンス・ヘッド』
独立ヘッドタイプのシンプルモデル

中期経営計画の進捗

中期経営計画の概要

東洋刃物株式會社

経営ビジョン

- さらに高品質･高付加価値品の刃物製造を目指す
- 超精密部品の加工において随一のメーカーとしての地位を確立
- 高精度精密製品の売上高構成比率を50.0%以上を目指し、継続して高める

期間

2016年4月1日から2019年3月31日まで

連結数値目標

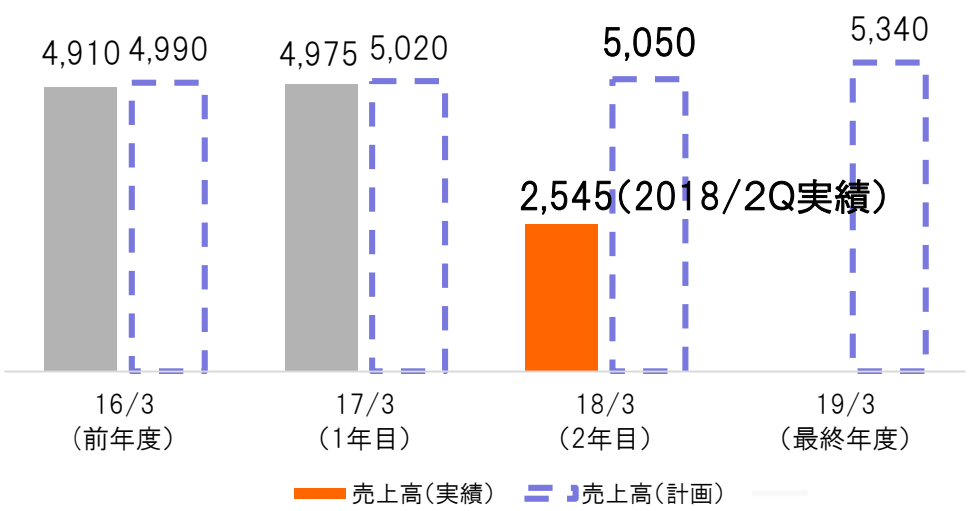
	2016年３月期 （計画策定時見込）	2019年３月期 （計画最終年度）
売上高	4,990百万円	5,340百万円
営業利益（率）	200百万円 （4.0%）	320百万円 （6.0%）
経常利益（率）	160百万円 （3.3%）	270百万円 （5.1%）
親会社株主に帰属する当期純利益（率）	130百万円 （2.7%）	200百万円 （3.7%）
自己資本比率	17.5%	25.0%
高精度精密製品売上高構成比率	50.0%以上	50.0%以上

中期経営計画達成に向けた推移

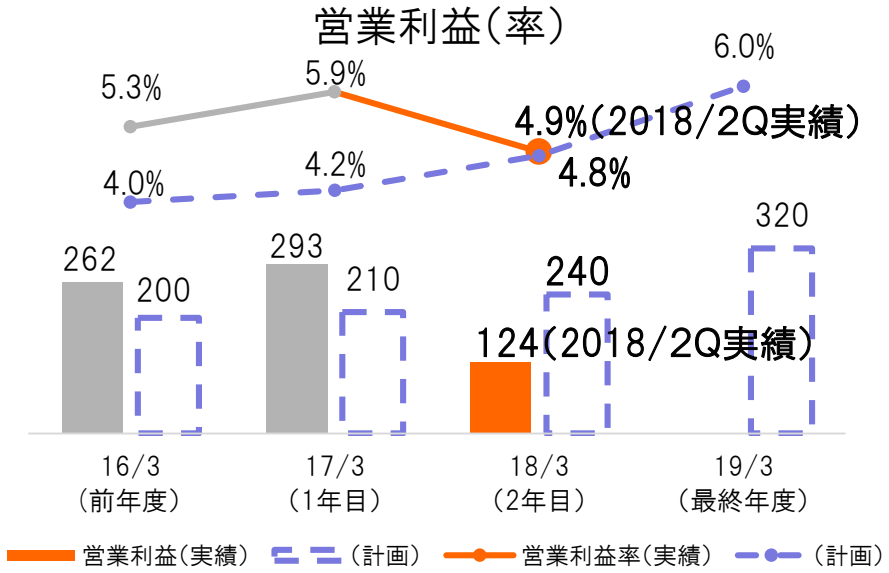
東洋刃物株式會社

単位：百万円

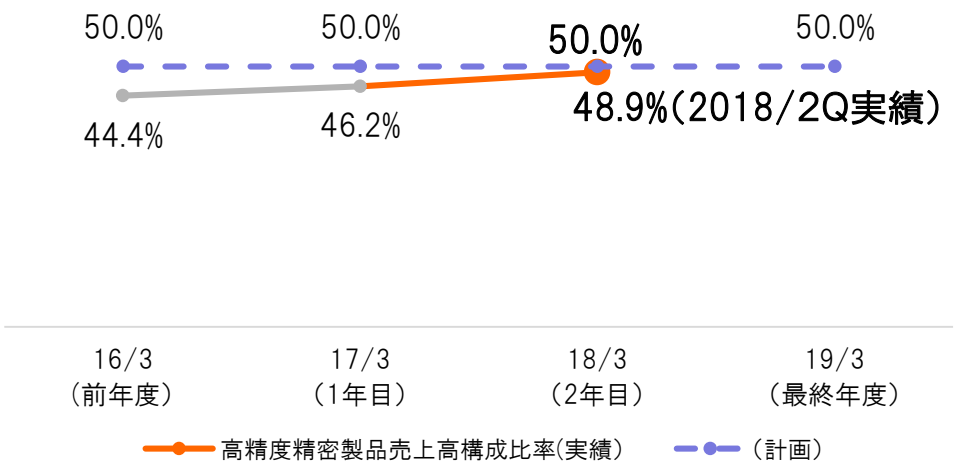
売上高



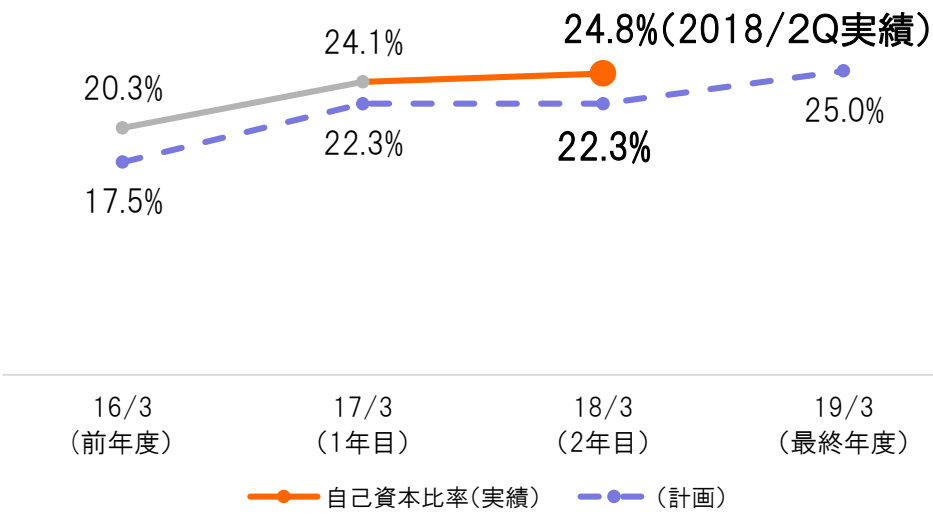
営業利益(率)



高精度精密製品売上高構成比率



自己資本比率



中期経営計画達成に向けた重点施策

東洋刃物株式會社

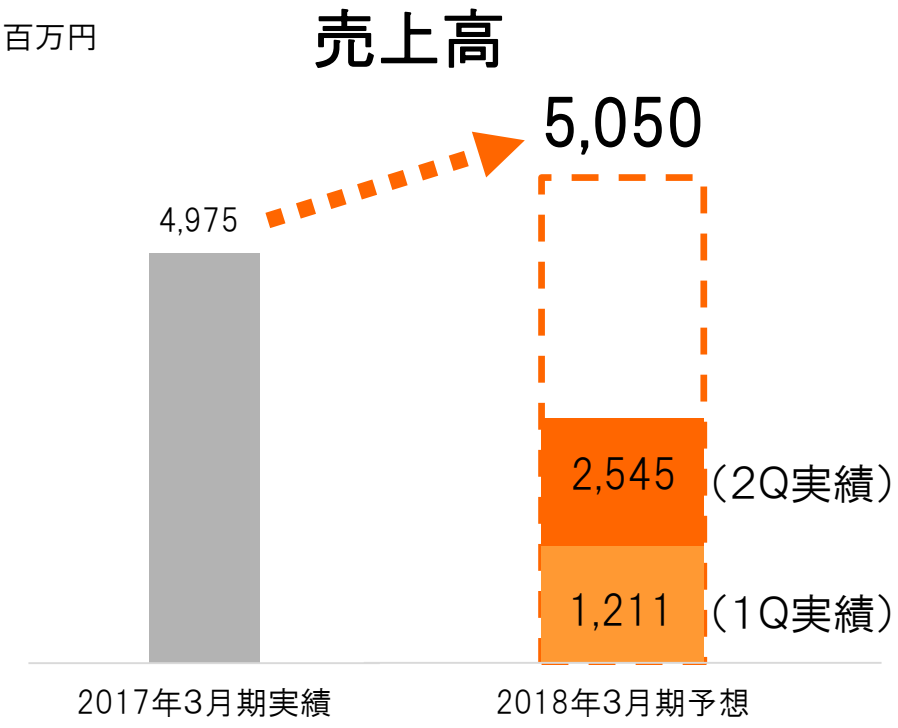
重点施策	実施状況	現状・展開：評価
		◎：完了　○：実施中　△：一部実施中　×：未実施
1　販売及び仕入の強化	①戦略品種の拡販策の実行 ②新製品Laboシリーズの追加ラインナップ ③調達機能の見直し ④各種展示会へ出展 ⑤自社ホームページの全面リニューアル	①提案型営業活動の徹底により、戦略品種の受注を確保し好調に展開：○ ②Laboシリーズ4機種開発済：○ ③新たな部署を設置し、調達機能の集約化：○ ④今期は3回出展予定（内、2回出展済）：○ ⑤全面リニューアル完了：◎
2　短納期・少量多品種を強みとする生産体制の構築	①戦略品種の製造リードタイム短縮策の展開 ②設備投資・内製化推進による外注費等削減策の展開 ③東洋刃物グループでの最適な生産体制の見直し ④生産管理システム構築、基準値の見直し	①一部品種については改善済。継続展開中：△ ②プロジェクトチームでコストダウン策展開中：△ ③グループ経営による生産性向上策の展開：△ ④新生産管理システムのベースは検討済、新基準値を展開し原価管理プロセスを強化：△
3　資本政策と財務基盤の強化	①繰越剰余金の損失を解消 ②リファイナンスによる財務基盤の安定化及び金融費用の低減 ③自己株式取得	①2017年3月期に減資により解消済：◎ ②2017年3月期にシンジケートローン実施済：◎ ③2017年3月期実施済：◎

2018年3月期 業績予想

通期の業績予想

東洋刃物株式會社

単位：百万円



■用途別事業環境

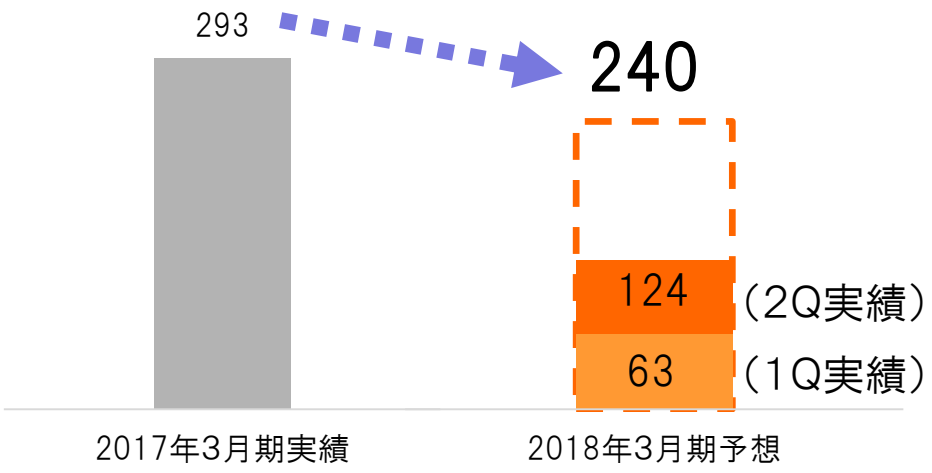
情報産業用	スマートフォンやタブレットを中心に、様々な分野で使用されている高機能フィルム素材が堅調なため、需要が見込まれる。
鉄鋼用	自動車向けの鋼板や石油、天然ガスの輸送に用いられる高度な技術を要求される鋼材は堅調なため、需要が見込まれる。
産業用機械及び部品	産業用機械は引合いが旺盛な状況で需要が見込まれる。部品は工作機械業界が非常に好調なため、摺動面に使用する製品の需要が見込まれる。
製紙パルプ用	インターネット通販等の拡大により、段ボール生産量が過去最高の見通しで、引き続き堅調な需要が見込まれる。

通期の業績予想

東洋刃物株式會社

単位：百万円

営業利益



■主な利益変動要因影響

減価償却費	更なる生産性向上、コストダウンを狙った設備投資により、減価償却費が増加の見通し。
人件費	人材基盤強化のため、積極的な採用の実行等により増加の見通し。

株主還元に対する基本方針

株主還元

基　本　方　針

将来に向けた事業展開のため財務体質と経営基盤の強化を図り株主資本の充実に努めるとともに、収益動向などを総合的に勘案し業績に相応した配当を実施することを利益配分の基本に考えております。

配　当

当期の配当につきましては、未定としております。

本件に関するお問合せは、
管理部　IR担当(022-358-8911)までお願いいたします。

本資料は証券投資に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。また、本資料には、計画、方針、経営戦略などといった、将来に関する記述があります。これらの記述は、当社が現在入手している情報に基づく予測、計画等を基礎として作成しているものであり、不確定要素を含んでいます。従って、様々な要因の変化により、実際にはこれらの記述と異なる結果となる可能性があります。
そのため、実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。また、投資に際して生じたいかなる損失に対し当社が責任を負うものではありません。